

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	一般国道 403号							
事業毎の通番	1	市町村名	須坂市	箇所名(ふりがな)	太子町(たいしまち)～春木町(はるきまち)						
事業概要	事業目的	当該区間は須坂市街地の玄関口になっており、朝晩の通勤時を中心に混雑が見られる。須坂小学校、相森中学校が近隣にあるが、歩道が狭く、危険な状態にあり、歩道の設置を含む早期整備が必要となっている。また、特に冬期間は積雪が多い地域のため歩行空間の確保に苦慮している。									
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律							
	関連する事業、計画等	通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) 須坂市通学路安全プログラム 須坂市都市計画区域マスタープラン									
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	須坂小学校への通学児童ほか 現況自動車交通量:10,753台/日(H27センサス)、現況歩行者交通量:46台・人/12h									
	着手年度	2023年度(R5)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)					
完成年度(見込み)	2025年度(R7)	費用対効果	-	国庫	94,285	その他	76,000	県債	9,715	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=230m W=2.5m			180,000	94,285	76,000	9,715				
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	利用者の安全確保、特に通学児童・生徒の交通事故の減少が期待される。									
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制 渋滞解消 緊急輸送路の整備									
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 46台・人/12h ○目的地からの距離：須坂小学校から950m、相森中学から350m、長野養護学校から500m							評価	A	
	重要性	○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定：通学路安全プログラム(R3合同点検) 須坂小学校 ○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」							評価	A	
	効率性	○事業期間：3年(R5～R7)							評価	A	
	緊急性	○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 3件(H29年2件, H30年1件) ○現況の歩道幅員：歩道なし							評価	A	
	計画熟度	○事業情報の共有：県の方針や市HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み：積極的な取組がある(須坂市一斉の安全教育、地区要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成：合意形成が図られている(沿線地権者了解済み、整備方法合意済み) ○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)							評価	A	
									評価	A	
建設部公共事業評価委員会の意見	小学生の通学路で、長野県の「通学路の安全確保に関する方針」で対策必要箇所とされており、また、須坂市通学路安全プログラムに位置付けられている。歩道が狭小で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。							採択状況	○	総合評価	A
長野県公共事業評価委員会の意見	建設部公共事業評価委員会の意見が妥当であると判断する。										
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	妥当	評価の決定	事業着手						

位置図 **平面図** **×=事故箇所(人身事故)**

至小布施町

至須坂駅

標準横断面図

12.0

2.5 0.5 3.0 3.0 0.5 2.5

須坂小学校

現況写真

①

②

事業概要説明図表

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、中野市・小布施町と長野市・千曲市を結ぶ重要な路線であり、交通量が非常に多い。当該箇所は須坂小学校及び相森中学校の通学路であり、朝夕の歩行者が非常に多く、事故も発生しているため、歩道の整備を行うものである。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	道路管理者、交通管理者、市、学校、PTA等による令和3年通学路合同点検で歩道設置による対策が挙げられた。地元区からも過去から歩道設置の要望がある。
③ 事業説明等の経緯	R3 地元区から事業の受け入れについて確認し、了解を得たことから、R3(追加)で測量業務に着手。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	須坂市都市計画マスタープラン 都市計画決定幅は12.0m
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。
⑦ その他	特になし

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 39' 43.85"
			東経:E 138° 18' 48.7"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(国)142号		
事業毎の通番	2	市町村名	下諏訪町	箇所名(ふりがな)	四ッ角(よつかど)	
事業目的	当路線は、諏訪大社下社秋宮の参道であり、特に年始や観光シーズンには、県内外から多くの観光客で混雑するが、北側に歩道が整備されておらず、参拝・観光客にとって危険な状態となっている。また、当地区においては下諏訪町が「街なみ環境整備事業」により、門前旧街道の歴史的な面影を伝える街なみづくりを進めており、街なみと一体となった歩道整備・景観が望まれている。このため、歩道設置と電線類の地中化を図り、歩行者の安全と街なみ環境への寄与を図る。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4 生命・生活リスクの軽減(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	下諏訪町街なみ環境整備事業、信州みちビジョン「施策I-(3)」					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	地元住民 下諏訪南小学校 諏訪大社下社秋宮 現況自動車交通量:4,440台/日(H27センサス)、現況歩行者交通量:540人/12h(H27センサス)					
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	—		国庫	その他
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工(L=95m, W=4.0m)			400,000	190,476	187,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保や諏訪大社下社秋宮参拝者の交通事故減少が期待される				
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量:540人/12h(H27センサス) ○目的地からの距離: 諏訪大社下社秋宮まで220m、下諏訪南小学校まで450m				評価
	重要性	○関連計画、重点施策との整合: しあわせ信州創造プラン、信州みちビジョン、下諏訪町街なみ環境整備事業 ○緊急輸送道路等の路線指定: 町の避難所に指定されている。(第三区事務所)				評価
	効率性	○事業期間:4年間(R5~R8)				評価
	緊急性	○近年の交通事故件数: 人or自転車×自動車事故発生 2件 ○歩道整備:現況歩道なし				評価
	計画熟度	○地域の取り組み:町が事業についてチラシを全戸配布し周知を図っている。 ○地域の合意形成:町からの強い要望。住民主体のまちづくりの整備区域。 ○合意形成が図られている:用地100%取得済み ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価7-1)				評価
所管課の意見	当該箇所は、全国的にも知られている諏訪大社下社秋宮の参道であり、下諏訪町の街なみ環境整備区域にもなっており、地域と一体となって街なみを整備していく必要があるが、歩道が未整備で観光客等の歩行者が安心して散策できる状況でないため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	平面図		
	位置図		写真
事業周辺環境	標準横断面図		
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は飯田駅前を起点に愛知県豊橋市に至る一般国道であり、地元公民館があることから避難路に指定されている。また、諏訪大社下社秋宮の参拝路にもあたる重要な路線であり、当該箇所の前後区間は歩道が整備済みとなっている。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、付近に諏訪大社下社秋宮や下諏訪南小学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者の安全な歩行空間確保を要望されている。	
	③事業説明等の経緯	本事業区間の南側は歩道整備済みであり、国道20号大社通り信号から諏訪大社下社秋宮間で最後の残区間となっているため、早期の歩道整備が求められている。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	下諏訪町(街なみ環境整備事業)	
	⑤地域温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境や観光産業への好影響が期待できる。	
	⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。	
⑦その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	歩行者の安全のため、早期の事業完了を図る。		事業代表地点の緯度経度
			北緯:N 36° 4' 28.73" 東経:E 133° 5' 14.58"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(一)伊那北殿線			
事業毎の通番	3	市町村名	上伊那郡南箕輪村	箇所名(ふりがな)	北殿(きたとの)		
事業目的	本路線は、(国)153号の現道とバイパスとを結ぶ道路であり、朝夕の通勤等に係る交通量が非常に多い。小中学校の通学路になっており、付近にJR飯田線の北殿駅もあることから、通学や電車を利用する歩行者の保護が求められている。しかし、当区間は歩道が未整備で、令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検においても歩道設置の要望が挙がった。そこで、当事業で歩道を設置することにより安全で安心な都市環境の形成を図りたい。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
関連する事業、計画等	南箕輪村通学路交通安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	南箕輪村立南箕輪小学校への通学生徒ほか 現況交通量:自動車 4,320台/日(H27センサス)、歩行者 65人/12h(令和3年度実測値)						
着手年度	2023年度(R5)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-		国庫	その他	
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=30m W=2.5m			50,000	26,191	20,000	
					一般財源	3,809	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 65台・人/12h ○目的地からの距離:南箕輪小学校から950m、北殿駅から100m				評価	A
	重要性	○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定:南箕輪小学校通学路点検箇所 ○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」				評価	A
	効率性	○事業期間:4年(R5~R8)				評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 2件 ○現況の歩道幅員:歩道なし				評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者・地権者等のほか、村HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:協力的な取組がある(地区要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている(事業目的、整備方法合意済み) ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)				評価	A
	所管課の意見	小学生の通学路であり、南箕輪村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表

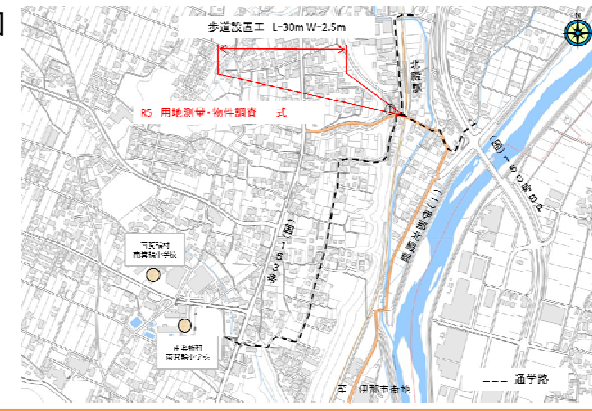
位置図



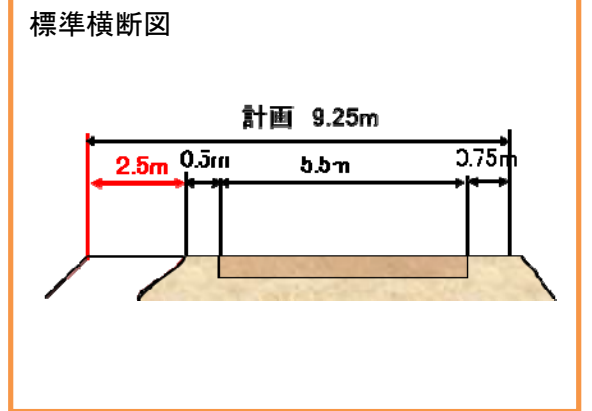
現況写真



平面図



標準横断面図



事業周辺環境

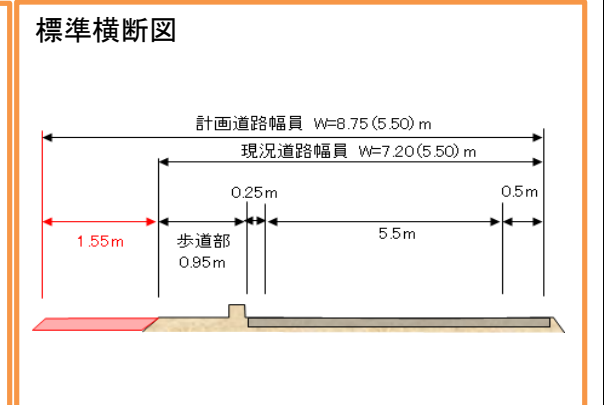
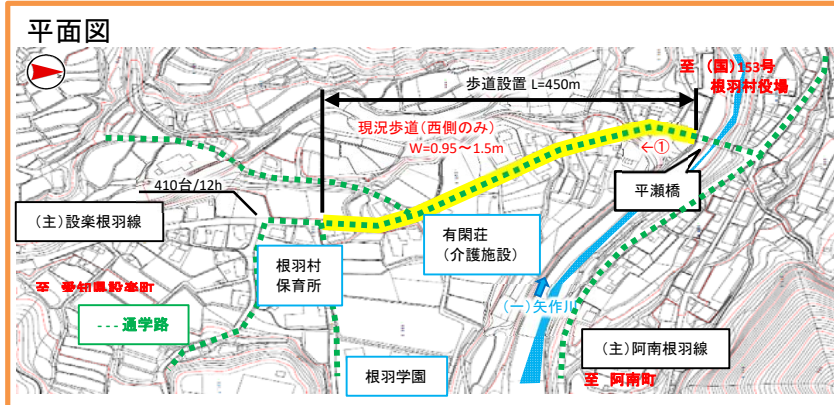
① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、(国)153号の現道とバイパスとを結ぶ道路であり、朝夕の通勤等に係る交通量が非常に多い。本事業区間の周辺は天竜川を渡るルートが少なく、対岸の伊那市の商業施設等へ向かう主要な道路である。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、小中学校の通学路になっており、付近にJR飯田線の北殿駅もあることから、通学や電車を利用する歩行者の保護が求められている。このため、恒常的な歩行者、自転車利用者の安全な通行空間の確保を要望されている。
③ 事業説明等の経緯	令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検箇所であり、南箕輪村通学路安全推進協議会において歩道設置による対策が決定。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	南箕輪村通学路安全プログラム
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。
⑦ その他	特になし
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 52' 43" 12 東経:E 137° 59' 02" 42

(様式1-2) 新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(主)設楽根羽線			
事業毎の通番	4	市町村名	根羽村	箇所名(ふりがな)	田島(たじま)		
事業概要	事業目的	当路線は下伊那郡根羽村と愛知県設楽町を結ぶ主要地方道であり、村内の義務教育機関である根羽学園への通学路となっているが、歩道の狭小な区間や未整備の区間が存在し、地域住民からの対策要望が高まっている。令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検においても歩道設置の要望が挙がった。当事業にて歩道の整備及び安全施設の設置を行い、歩行者の安全確保を図りたい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	根羽村通学路交通安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	村立根羽学園への通学生徒ほか 現況交通量:自動車 410台/12h(H27センサス)					
	着手年度	2023年度(R5)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-		国庫	その他
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=450m W=2.5m			200,000	104,762	85,000 10,238
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学生徒や高齢者の交通事故の減少が期待される。					
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 25台・人/12h ○目的地からの距離：根羽学園から200m			評価	B	
	重要性	○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定：根羽学園通学路点検箇所 ○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」			評価	A	
	効率性	○事業期間：4年(R4~R8)			評価	A	
	緊急性	○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 2件 ○現況の歩道幅員：歩道なし			評価	A	
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者・地権者等のほか、村HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み：協力的な取組がある(期成同盟会要望、村からの要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている(事業目的、整備方法合意済み) ○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)			評価	A	
	所管課の意見	小学生の通学路であり、根羽村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が狭小で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表



事業周辺環境

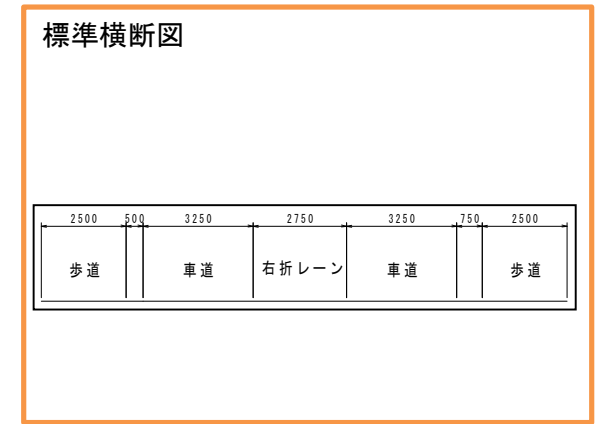
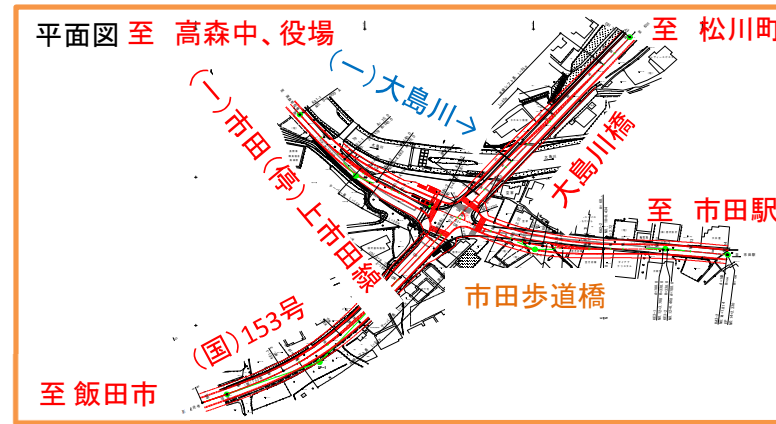
① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は下伊那郡根羽村と愛知県設楽町を結ぶ主要地方道である。平成24年、令和3年と全国で登下校中の児童が死傷する事故が発生していることから、本路線においても緊急合同点検を実施し、事業の計画に至った。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	村内の義務教育機関である根羽学園への通学路となっているが、歩道の狭小な区間や未整備の区間が存在し、地域住民からの対策要望が挙がっている。
③ 事業説明等の経緯	令和3年に緊急合同点検を実施し、根羽村通学路安全推進会議により歩道設置の対策を策定した。会議において関係機関内で情報共有を行うとともに、点検結果及び対策内容について根羽村HPで周知を行った。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	根羽村通学路安全プログラム
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。
⑦ その他	特になし
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 05' 05.1" 東経:E 137° 35' 0.36"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	国道153号			
事業毎の通番	5	市町村名	高森町	箇所名(ふりがな)	出砂原(ださら)		
事業概要	事業目的	(国)153号は、名古屋市を起点として塩尻市に至る主要な広域幹線道路であるとともに、令和9年度開業予定のリニア中央新幹線長野県駅(仮称)へのアクセス道路としての役割も担う道路である。 しかし、当区間は歩道が未整備で、令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検においても歩道設置の要望が挙がった。そこで、当事業で歩道を設置することにより安全で安心な都市環境の形成を図りたい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	高森町第7次振興総合計画 天竜川高森かわまちづくり計画 高森町通学路安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	高森町立高森南小学校への通学生徒ほか 現況交通量:自動車 11,856台/12h(R3全国道路・街路交通情勢調査)、歩行者+自転車 7人/12h(R3全国道路・街路交通情勢調査)					
	着手年度	2023年度(R5)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-	国庫	その他	県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=270m W=2.5m			323,000	169,191	137,000 16,809
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される				
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 267台・人/12h ○目的地からの距離：原小学校から350m、原中学から550m				評価	A
	重要性	○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定：高森南小学校通学路点検箇所 ○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」				評価	A
	効率性	○事業期間：4年(R5~R8)				評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 2件 ○現況の歩道幅員：歩道なし				評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者・地権者等のほか、町HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み：協力的な取組がある(期成同盟会要望、地区要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている(事業目的、整備方法合意済み) ○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)				評価	A
	所管課の意見	小学生の通学路であり、高森町の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表



事業周辺環境

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(国)153号は、名古屋市を起点として塩尻市に至る主要な広域幹線道路であるとともに、令和9年度開業予定のリニア中央新幹線長野県駅(仮称)へのアクセス道路としての役割も担う道路であるが、飯田方面へ向かう車線に右折レーンがないことから、通勤時間帯の渋滞がひどく、高森町及び北部ブロック町村会より改良要望が上げられた。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、小中学校の通学路になっており、恒常的な歩行者、自転車利用者の安全な通行空間の確保を要望されている。
③ 事業説明等の経緯	令和3年6月の千葉県八街市の児童死傷事故を受けた緊急合同点検箇所である。右折レーン設置による渋滞対策、交差点の交差角改善による安全な通行の確保と共に、歩道設置による歩行者の安全確保を目的とする。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	高森町第7次振興総合計画 天竜川高森かわまちづくり計画 高森町通学路安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。
⑦ その他	特になし

事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 53' 02" 40 東経:E 35° 33' 00" 50
------------------	------------------------	-------------	---

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(一)土合松本線		
事業毎の通番	6	市町村名	朝日村	箇所名(ふりがな)	下洗馬	
事業目的	当該路線は、朝日村と松本市を結ぶ主要道路であり、中組バイパス開通後は当該区間において自動車交通量が増加している。しかし、当区間は歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。近隣には、朝日小学校があり通学路にも指定されていることから、R3通学路合同点検の対策内容が歩道設置となっている。 当事業により歩道整備することで、通学をはじめとする歩行者の安全な通行空間を確保する。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	朝日村通学路交通安全プログラム、しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	朝日小学校 他 現況自動車交通量:598台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:45台・人/12h					
着手年度	2023年度(R5)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-		国庫	その他
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=600m W=2.5m			200,000	104,762	85,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される				
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 45台・人/12h ○目的地からの距離:朝日小学校から1900m、西洗馬公民館から450m				評価
						A
	重要性	○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定:朝日小学校通学路点検箇所 ○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」				評価
						A
	効率性	○事業期間:4年(R4~R8)				評価
						A
緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 1件 ○現況の歩道幅員:歩道なし				評価	
					A	
計画熟度	○事業情報の共有:関係者・地権者等のほか、村HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:協力的な取組がある(期成同盟化要望、地区要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている(事業目的、整備方法合意済み) ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)				評価	
					A	
所管課の意見	小学生の通学路であり、朝日村の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

位置図

標準横断面図

平面図

現状写真

事業概要説明図表

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当区間は周辺に朝日小学校があり、児童・生徒の通学路となっているが、朝日村と松本市及び塩尻市を結ぶ重要な区間でもある。中組バイパス開通後は、大型車を含め通行車両が増加しており、歩行者が危険に晒されている。今までも歩道設置の要望があったが、PTAや地元から通学路点検等を通じ速やかな対策実施の声が高まっている。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	付近に小学校があることから、歩行者の保護が求められている。このため、歩行者の安全な歩行空間の確保を要望されている。
③ 事業説明等の経緯	令和3年10月の通学路合同点検で当区間の対策内容を歩道設置とすることで関係者と合意。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	朝日村通学路交通安全プログラム
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。
⑦ その他	特になし

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 26' 42.4716"
			東経:E 138° 1' 42.1026"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)安曇野インター堀金線		
事業毎の通番	7	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	田尻～田多井(たじり～たたい)	
事業目的	当該箇所は市立堀金小学校の通学路に指定されているものの、歩道が未整備であり、かつカーブで見通しが悪く、車両との接触のおそれがある状態となっている。また、H24・R3通学路緊急合同点検において、要対策箇所指定されている区間の一部である。このため、通学する児童の安全を確保するため、歩道を整備する。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	安曇野市都市計画マスタープラン、安曇野市道路整備推進計画、安曇野市通学路安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	堀金小学校 通学者、安曇野市街地方面及び松本市方面 通勤者他 地元住民 現況自動車交通量:8,356台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:27人/12h(H27センサス)					
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	—		国庫	その他
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=780m			500,000	275,000	— 202,500 22,500
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される。				
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故の減少が期待される。				
評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量 : 27人/12h ○目的地からの距離 : 480m(堀金小学校)				評価 B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 安曇野市都市計画マスタープラン、安曇野市道路整備推進計画 ○通学路等の指定 : 堀金小学校の通学路に指定されている				評価 A
	効率性	○事業期間:4年間(R5～R8)				評価 A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 2件 ○現況の歩道幅員 : 歩道なし				評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者・地権者等のほか、市HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:協力的な取組がある(地区要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている(事業目的、整備方法合意済み) ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)				評価 A
所管課の意見	小学生の通学路であり、安曇野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が無く危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

位置図

H27センサス
自動車 8,356台/12h
歩行者 27人/12h
自転車 116台/12h

田尻～田多井 歩道設置工 L=780m

田尻工区 H25～R5

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本事業区間は、堀金小学校の通学路に指定されており、歩行者も多く、地域住民からの対策要望が高まっている。しかし当区間は歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	小中学校の通学路となっていることから、歩行者の保護が求められている。このため、地元区から安全な歩行空間の確保を毎年要望されている。
③事業説明等の経緯	R3通学路合同点検時に対策手法を説明。地元関係者との調整を実施中。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	安曇野市都市計画マスタープランにおいて、東西の主要な移動軸に位置付けられている。 安曇野市道路整備推進計画において、広域交流幹線道路に位置付けられている。 安曇野市通学路安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。
⑦その他	特になし

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、調査段階から十分な合意形成を図ることでより早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 51' 56" 東経:E 36° 15' 24"
------------------	---	-------------	---------------------------------------

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(一)中堀一日市場(停)線			
事業毎の通番	8	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	楡(にれ)(交差点)		
事業目的	当路線は、広域農道及び松本環状高家線に接続する幹線道路に位置し、交通量が非常に多い。当該箇所は、平成29年1月に事故危険箇所(A基準)に指定されている。(事故危険箇所 20-T07895-000) 交差点における歩行者の横断及び自動車交通の安全を確保するため、住吉交差点～楡交差点間における交差点改良を計画するもの						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
関連する事業、計画等	安曇野市都市計画マスタープラン、安曇野市道路整備推進計画、安曇野市通学路安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	三郷小学校、三郷中学校 通学者、安曇野市街地方面及び松本市方面 通勤者他 地元住民 現況自動車交通量:2,706台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:178台・人/12h(H27センサス)						
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	-		国庫	その他	
全体事業内容(主な工種)	交差点改良工 1箇所			200,000	104,762	85,000	
					県債	一般財源	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や沿道の商業施設利用者の交通事故の減少が期待される。					
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故の減少が期待される。					
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量：現況交通量 178台・人/12h ○目的地からの距離：三郷小学校から2500m、楡公民館から600m				評価	A
	重要性	○通学路の安全確保に関する方針(長野県交通安全運動推進本部) ○通学路の指定：三郷小学校通学路点検箇所 ○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」				評価	A
	効率性	○事業期間：4年(R5～R8)				評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 2件 ○現況の歩道幅員：歩道なし				評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者・地権者等のほか、市HPにより関係者以外にも周知 ○地域の取り組み：協力的な取組がある(地区要望活動、学校PTA要望活動) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている(事業目的、整備方法合意済み) ○事後・再評価からのフィードバック：同種事業の結果を反映(事後評価 7-1:計画的な事業実施)				評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、安曇野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が狭小で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手		

位置図

住吉交差点

楡交差点

計画箇所

①

サラダ市進入レーン
道路外

至 松本市

②

至 大町市

事業概要説明図表

計画延長 L=277m

至 大町市

至 松本市

県道交差点部

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本事業区間は、三郷小学校及び三郷中学校の通学路に指定されており、通学路合同点検により、学校関係者、地域住民からの対策要望が高まっている。しかし当該箇所は交差点内の右折レーンや歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	小中学校の通学路となっていること、交差点の右折レーンが未整備となっていることから、車両通行の安全と歩行者の保護が求められている。通学路合同点検を実施し、対策が必要な箇所として事業実施が要望されている。
③事業説明等の経緯	H26年度に地元区長及び役員等へ事業説明を実施。 R3通学路合同点検時に対策手法を説明。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	安曇野市都市計画マスタープランにおいて、南北の主要な移動軸に位置付けられている。 安曇野市道路整備推進計画において、広域交流幹線道路に位置付けられている。 安曇野市通学路安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、暮らしやすい良好なまちづくりが期待できる。
⑦その他	特になし

事後・再評価からのフィードバック

子供の安全確保のため、調査段階から十分な合意形成を図ることに
より早期の事業完了を図る。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 137° 51' 56"

東経:E 36° 15' 24"